

まちひとしごと

Vol. 48

北海道 後志総合振興局 地域創生部
地域政策課長 兼 新幹線推進室長
寺山 善規 さん



ふるさとと北海道のため 自分ができることを

後

志総合振興局の寺山善規さんは、小樽市で生まれ育ち高校卒業までをその地で過ごした。学生時代は山岳部に所属し、現在も夏は登山、冬はスキーを楽しむ。

高校卒業後は、ふるさと北海道のために道内各地で働きたいとの思いから、北海道職員を志し、留萌市で道職員生活をスタートさせた。

「転勤などもあり、そのたびに新たな出会いや発見があることが道職員の魅力です。住んでみて、初めてわかるその土地の良さもたくさんあり、常に新鮮な気持ちや緊張感をもった生活ができていま

す」

その後は、札幌市での勤務を経て、平成24年に初めて倶知安町に赴任。2年間勤務の後、札幌市に異動したが、昨年4月に再び生まれ育った後志に戻ってきた。

倶知安町には、子どもの頃から何度も訪れていたというが、当時とは違う現状に驚きとともに複雑な思いを抱いている。

「国際リゾートとして開発が進み、今後は新幹線開業などが控え交通網も充実していくこの地域には、無限の可能性があります。その一方で、昔なじみのお店がなくなっているなどの寂しさも感じました」

そのような思いを抱く中で、新型コロナウイルスの感染拡大が起こり、飲食店が長期間休業するという状況になった。

寺山さんら地域政策課では、地元の飲食店を応援しようと昨年6月『エールしりべし！お弁当マルシェ』を始め、管内の飲食店が振興局内でお弁当を販売し、お客さんと直接触れ合うことができる機会を設けた。

「緊急事態宣言による外出自粛や飲食店の長期休業は、誰も経験したことがないものですが、自

分たちにも何かできることはないか手探りでスタートでした。当初は『販売する飲食店やお客さんが集まるか』不安もありましたが、多くの皆さんが協力してくれました」

コロナ禍でイベントなどが中止となり、地域の人たちと交流できない状況が続くが、この取り組みを通して、新たなつながりができていると話す。

「飲食店の方やお客さんとの出会いが楽しみです。この取り組み自体は小さなものかもしれませんが、地元のお店にエールを送る場として、今後も続けていきたいと思っています」

今年の『エールしりべし！お弁当マルシェ』は、昨年度の好評を受けて2期に分けて開催。第1期は900人を超える来場者があり、現在は第2期開催に向けて準備を進める。

町内外から多くのお客さんが、地元の味を楽しみに訪れるようになったその背景には、『ふるさと北海道のため』行動する寺山さんと同僚の姿があった。

※まちひとしごとは不定期連載です